

山口県は三方を海に開かれ、豊富な水産資源に恵まれた県です。

その漁獲量は、農林水産省の平成23（2011）年「海面漁業生産統計調査」によると、沿海都道府県中、アマダイ類で1位、サザエは2位、車エビは6位となっています。

また、水産加工品生産量は、同省の「2008年漁業センサス」では、魚肉ハム・ソーセージ類で全国2位、かまぼこ類で4位です。

しかし近年、水産業を取り巻く環境は厳しさを増しています。山口県の漁獲量は、1988年（昭和63年）から10年の間に、約4分の1に激減し、それ以降は徐々に減少しています。

原因の一つに、漁業就業者の減少、高齢化が指摘されています。

農林水産省が実施する「漁業センサス」から、本県の漁業就業者数の推移を見ると、1988年から20年の間で、65歳以上の就業者はそれほど変化していませんが、65歳未満の働き盛りの世代で、大きく減少しています。

結果、2008年の就業者数は、20年前の約半数に減少し、そのうち65歳以上の高齢者が約半数を占めています。

漁業を新たに始める若い世代が少ない現状が、読み取れます。

本年度が実施年にあたる「漁業センサス」は5年に1度実施され、「漁業を営む世帯等に関する調査」は11月1日現在で、「水産加工場や流通、魚市場に関する調査」は翌年1月1日現在で実施します。

対象となる世帯（事業所）には、調査員証を持った統計調査員がうかがいます。ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

